

令和4年の新春を迎えました。会員の皆さまにおかれましては良いお正月を迎えられたこととお喜び申し上げます。昨年も世界中で、新型コロナウイルス感染が変異株の出現で猛威を振るい、社会生活や経済活動に大きな影響が続きました。一方で、オリンピック・パラリンピックを始め、スポーツを通じて勇気を頂戴しました。



第51回学術大会は、皆さまと平和都市広島に参集するのを楽しみにしていましたが、急速な感染第5波の蔓延により、急遽WEB開催に変更し、年末にオンライン形式で開催しました。津賀一弘大会長のもとで第50回記念学術大会の大会テーマである「インプラント治療－これまでの50年、これからの50年」を踏襲し、さらに「インプラントで支える未来の健康」のサブテーマのもと、国民の健康寿命の延伸に向かって邁進することを謳いました。多くの会員に参加していただき、感謝申し上げます。

学会が前身学会の設立から50周年を迎えたので、記念事業として50周年記念誌を編纂し、昨年7月にCD-ROM版を全会員に配布し、11月にはハードカバー本を発行しました。今日の本学会ならびに我が国におけるインプラント治療を牽引してきた先達のご努力に敬意を表し、歴史を理解したうえで、本年は次の50年に向かって新しいスタートを切りましょう。たびたび延期になっていた記念式典は、本年5月22日に開催する予定です。

昨年は歯科を含めて我が国における専門医制度が大きく変わり、日本専門医機構(歯科では日本歯科専門医機構)が認めた専門医が広告可能になりました。これを受けて、インプラント歯科専門医(仮称)についても、引き続き日本顎顔面インプラント学会と連携して日本歯科専門医機構との交渉を継続しています。機構の基準を満たす必要があるため、本学会にとっても痛みを伴う改革が必要になりますが、会員の悲願でもありますので、早期の実現に向けて最大限の努力を重ねてまいります。

ワクチン接種の普及とともに国内の感染状況が落ち着いてはいますが、世界的なオミクロン株流行でまだまだ油断はできません。本年は是非とも平穏な年になるようにお祈り申し上げます。本年も会員の皆さまの学会運営へのご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。